



編集・発行 カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）

司教チーム：後藤正史神父, アルベルト神父, トウアン神父,

（協力司祭）豊田尚臣神父

〒730-0016 広島市中区幟町4番42号

TEL (082)221-0621 FAX (082)221-8486

<http://www.nobori-cho-catholic.com>

2013年11月号 No.461

## ♪ 信仰年は続くよ、どこまでも ♪

### 教皇フランシスコと共に原点に立とう！ 教会も個人も

シメオン後藤正史神父

前教皇ベネディクト16世から現教皇フランシスコにバトンタッチされた信仰年（2012年10月～2013年11月）、まもなく終わります。終わりますが、また始まります。というのも、私たちは生涯を通して、信仰を持って生きることを望んでいるからです。

新教皇フランシスコは今年の四旬節の最中、教皇座に着かれました。その後、新教皇の口から紡ぎだされるメッセージ\*は、その都度、私たちカトリック信徒だけでなく、この世界に清新な爽やかな風を注ぎ込んでいます。それは、私たちの渴きをいやす力を持っているからでしょう。闇に光を、絶望に希望という福音をもたらしたイエスに素朴に従おうとする姿勢が明確です。

教皇に選出されて直後のメッセージ（聖ペトロ大聖堂バルコニー）で、「私たち教会は貧しい人々の教会、貧しい人々のための教会でありたい」と基本方針を鮮明に表明されました。実際、それはご自身の行動においても示しておられます。例えば、従来の教皇執務室を使用せず、訪問者用宿舎を自らの執務室としたり、ローマ市内の少年院訪問、難民支援センター訪問などです。そして、司祭や修道者は最新の高級な車を乗り回さないようにと語るなど、キリストの弟子たる私たちの取るべき基本姿勢は謙遜と奉仕だと、繰り返し説いておられます。実のところ、キリストに従うと言いつつ、福音的な生き方とほど遠い現実があるということとし

よう。新教皇は、何も目新しいことを言われているわけではありません。

しかし、ひたすら、ひたむきに、ひとすじに、キリストの弟子でありなさいと教皇は説くだけではなく、ご自身が実践している、しようとしていること自体に大きな説得力があります。司教、司祭、修道者がまず、率先して、回心の道を歩んでこそ、教会共同体がまことの意味での信仰共同体になっていく道が開かれるということです。

旧約聖書の時代から示されているように、この世の力を代表する力が二つあります。それは武力（軍隊）と財力（お金）です。その二つの力に権力者（国家、政府）がよりかかろうとする動きがますます激しさを

増している昨今の日本です。わたしたちは上滑りの言動に惑わされることなく、世間の価値基準、「自旨のままに」ではなく、神の国、福音の価値基準、「御旨のままに」生きるよう招かれています。

信仰年閉幕と共に、救い主の到来を待ち望む待降節が始まります。主よ、私たちキリスト者一人一人が、また共同体として「貧しさ」を選び取り、「小さくされた人々」を進んで迎え入れることができるよう一步一步歩んでいけますよう、私たちを励まし導いてください。

\*インターネットで「教皇フランシスコインデックス」で検索すると、メッセージ集を閲覧できます。



### 編集後記

この頃、台風による被害がとて多いです。海面温度が上がっているから発生する台風の数…。これも温暖化が原因なのか。と将来の地球が心配になります。小さなことからでもやっていきたいと思えます。(さ)

# 子どもたちが募金でシリアを支援



9月29日、日曜学校の子どもたちと青年たちが、ミサ終了後にシリアの子どもたちのための募金をしました。

今シリアでは内戦で大量の化学兵器が使われたと言われています。そしてその犠牲者には多くの子どもたちが含まれています。

子どもたちと青年たちが集まり、海外からも東日本大震災に支援してくれたように自分たちも外国へ支援したいと、シリアへの募金を決めました。

子どもたちは、手作りの看板や大きな声で皆様に支

援を呼び掛け、シリアの子どもたちのためにユニセフに送金することができました。

今回は、教会関係者以外の方にも広く支援を呼び掛けることとし、次のように募金を呼びかけます。

皆様の温かい支援をお願いします。

### 次回街頭募金

日にち：11月17日(日)

時間：リース作りをしてご飯を食べた後から。15時頃解散予定

場所：八丁堀交差点(ヤマダ電機の角、相生通りと胡町通りの角) 予定

※一緒に並んでくれる保護者の方も大歓迎です



# 人生の 信仰 先輩たち からの メッセージ

9月15日、敬老の日の祝賀会での人生の先輩たちからの言葉シリーズです。

今回は、いつも祈っていることを紹介します。

- 戦争の犠牲者（終戦のころハルピン、タイレンに在住）
- 世界の平和を！ 痛みを抱えている人のため
- 家族の為や、震災にあわれた方のために祈っています。
- 家族、震災の被災者の為（物資も寄付した）
- 年と共に祈りが深くなった。祈りの力を感じる。



- 体も弱ってきたが、十字架を握って祈ることもある。
- 若いころ自分は力んでいたが、この頃は神様にすべてをゆだねるようになった。
- 共にいてくださる神様に出会える。
- 家族の為（感謝）
- 家族のこと。災害にあわれた方々のため。
- 世界の平和のため。
- 家族のために主の祈り、聖母の祈りを朝夕している。
- 自分に少しでもかかわった人がいると、その人のためにも祈っている。また、自分のためにも祈っています。
- 死んだ人の平和。子どもたちの平和。妻の健康。親族の平和。
- 皆さんに感謝の祈りをしている。
- 家族の健康のために。
- 若い人たちの明るい未来のために。
- 為政者の人が絶対者である神を知り、信じて神様に喜ばれる政治をして下さるように。
- シリアの軍事介入がされないよう一生懸命祈る。
- 自分自身のため（弱さに負けて神様に喜ばれる生き方ができない事の赦しと願い）。
- 家族友人のため（身内やまわりの人が神様を知ることができるように・重病のうちにある友人のため・人と温かく接する事ができるように）

